

市長施政方針 ～令和5年6月市議会定例会～

本日ここに、令和5年第3回諏訪市議会定例会を招集いたしましたところ、議員各位のご参集をいただき、厚く御礼を申し上げます。

さて、5月の臨時会におきまして議会の役員構成が決まり、本議会は、議事機関の体制が整った最初の定例会となります。

そこで、この機会に、市民の負託をいただき3期目の市政を担うに当たって、私の基本的な考え方を申し上げます。

私たちが置かれております現代社会は、世界におきましては、様々な局面でボーダーレス時代を迎え、経済はもちろん、人流、物流、情報を含め、DX（デジタルトランスフォーメーション）、GX（グリーントランスフォーメーション）など、社会情勢が地球規模で急速に進展し、また変化をしています。国内におきましては、加速する人口減少や超少子高齢社会の只中にありながら、コロナ禍から社会経済活動の本格化というアフターコロナへの転換期を迎えております。このように目まぐるしく変化する社会情勢に加え、激しさを増す自然災害や新型コロナウイルス感染症のような予期せぬ困難に直面する状況下にあります。今この時代を生きる私たちが時機を逸することなく未来への責任を果たすとともに、未来に夢と希望を持って、私たちのふるさと諏訪の魅力をも市民はじめ、関わる全ての人と共に磨き上げ、更に輝く諏訪を目指して市政を推し進めてまいりたいと存じます。

私は、この度の選挙に際しまして、「磨けば輝く 透明度日本一の高原湖畔都市」と題し、私の目指す諏訪市の将来像を9項目に、そして109の政策を市長3期目のマニフェストとしてまとめ、その実行を市民の皆様にお約束をいたしました。その中でも、私の今任期における喫緊の課題として捉え、優先的に取り組んでまいります3つの事業について、はじめにご説明を申し上げます。

一つ目は、上諏訪駅周辺、市の中心地区の一体的な整備についてであります。人口減少時代におけるコンパクトシティの形成を見据えて進めてまいりました上諏訪駅周辺のまちづくりは、諏訪湖スマートインターチェンジ、柳並線延伸など大型ハード事業の推進や上諏訪駅周辺まちなか未来ビジョンの策定によって、エリア一体の活性化に向けた取組への機運が高まっております。そこで、交通の利便性が高く、人々が交流し、産業や文化が充実した賑わいのある中心市街地を形成するため、文化センター、上諏訪駅西口広場、諏訪湖イベントひろばを一体的に捉え、整備を進めてまいります。

その第一弾として、戦後において当市の産業を牽引した企業に由来する遺産でもあり、国の登録有形文化財である文化センターの大規模改修を実施いたします。改修に当たっては、文化センター保存活用計画と令和2年度に作成した改修検討資料に基づき、文化、産業、活力創出の拠点として、安全で安心して利用することができるよう、今年度は基本設計に着手し、実施設計、改修工事等を経た後に、文化財としての価値を保ちつつ、現代にふさわしい活用ができる施設としてリニューアルオープンを目指してまいります。

次に、上諏訪駅西口広場整備事業につきましては、未来ビジョンの実現に向けた取組の

一つとして位置付け、今年度を実施をいたしますエリアプラットフォームの構築を進め、公民連携によるまちづくりを実践する中で、議論を進めてまいります。

そして、諏訪湖イベントひろばの整備につきましては、諏訪湖イベントひろば基本計画に則り、ものづくりを中心とした産業振興を基軸に、ひろば全体の活用計画の具体化を図るため、関係機関等と協議、調整を進め、整備方針をまとめてまいります。

二つ目は、南部地区の施設一体型小中一貫教育学校の整備についてであります。将来的に市内3校の施設一体型小中一貫教育学校を整備する未来創造ゆめスクールプランに掲げた方針に基づき、現在、重点地区としている南部地区における施設整備の方針を定めてまいります。基本的には、四賀小学校・中洲小学校・諏訪南中学校を含む南部地区3校を中心的な対象として、現在の諏訪南中学校の敷地を活用し、施設一体型小中一貫教育学校として再編・整備することを目指してまいります。その上で、今年度は、整備基本構想の策定に着手するため、地域の方々など関係者で構成する再編推進委員会を立ち上げ、施設整備について議論を始めてまいります。

三つ目は、“ひろがる笑顔”ゆめ保育所プランの推進についてであります。現在、市内にある13の公立保育所の多くは、1970年から80年代に建てられたものであり、当時に比べ、市内の人口分布はもとより、子どもの育ちをめぐる環境は変化し、保育に対する家庭や地域の期待も大きく変化をしております。人口減少がもたらす様々な影響に向き合いながら、多様化するニーズと質の高いサービスを提供していくためには、限りある保育資源の効果的な配置と効率的な運用は不可欠であります。そこで、保育所“笑顔プラン”に基づき、子どもたちが友だちといきいきと遊び、学び合える環境が整う適正規模の保育所を、保育の需給バランスや義務教育との円滑な接続を考慮し、地域に適正配置されるよう、保育所の再構成に取り組んでまいります。また、プランの推進に当たっては、子育て世代のニーズや期待にも耳を傾け、民間活力の活用について積極的に検討し、市全体の保育・幼児教育環境の充実に取り組んでまいります。

次に、申し述べました3つの最重要課題のほか、マニフェストに掲げた主な政策につきまして、諏訪を表す4つのアルファベットであるS、U、W、Aを頭文字にしたマニフェストの構成に沿って、順次、ご説明を申し上げます。

最初は、S・U・W・AのS、「諏訪に住みたいでSUWA」で、美しい自然と共生する、爽やかで安全なくらしの実現についてであります。

一つ目として、行政の最も重要な責務として市民の生命・財産を守るため、防災・減災による災害に強いまちづくりに取り組んでまいります。自然災害は突然起こりうるだけでなく、近年では各地で多発化・激甚化の傾向が続いております。市民一人ひとりが日頃から防災意識を高め、いざという時に状況に応じた適切な避難行動をとることができるよう支援するとともに、災害時に市民の皆様が必要な情報を正確かつ迅速に得ることができるよう、防災メール、市公式LINE、市ホームページの災害特設ページなど災害情報の受信・発信手段を整備してまいります。

また、地域における助け合いがあるまちづくりを推進するため、避難に際し支援が必要な方の個別避難計画や災害時住民支え合いマップの作成など、高齢者や障がい者が安全に避難できる体制づくりを支援してまいります。さらに、自主防災組織や関係団体と連携を密にして避難所の開設・運営訓練を実施し、誰もが安心して快適に過ごせる避難所の環境を整備するほか、助け合いの意識の醸成とスキルの向上に取り組む地域、学校、職場や近隣自治区、消防団の活動を支援し、官民協働による防災、減災に取り組んでまいります。

このほか、多くの河川が流入する諏訪湖に面し、浸水被害に度々見舞われる地域を中心に、地元区との連携による水路の改修や内水排除ポンプの設置など排水対策を強化するとともに、諏訪湖や流入河川、天竜川流域の整備による広域的な治水対策を進めるため、諏訪湖流域治水促進期成同盟会を通じた活動を展開してまいります。加えて、森林が持つ土砂流出防止機能を高めるため、計画的な間伐や危険木の除去などの森林整備を支援し、土砂災害に強い山づくりを推進してまいります。

二つ目として、社会基盤整備と安全で楽しめるまちなか整備を進めてまいります。郊外における景観づくりでは、諏訪大社の門前町にふさわしい景観と調和した道路の美装化を含めた上社周辺の街なみ整備事業に地元地域と連携して着手するほか、諏訪湖周辺の道路をはじめ県道湖岸武津線など、沿線の住民や宿泊業者、商業者等の協力を得ながら、景観の整備に取り組んでまいります。

道路整備につきましては、国において一部区間の新規事業化と事業着手が決定し、半世紀にわたる道路課題の解決に向け本格的に始動する国道 20 号諏訪バイパスや諏訪湖スマートインターチェンジ関連工事である有賀峠方面への県道諏訪辰野線の整備など、地元区に寄り添いながら事業の促進に協力してまいります。また、河川の氾濫による家屋等への浸水被害を防ぐために県が行う上川河川改修工事の早期着手に向け、諏訪圏域河川整備計画の促進に協力するとともに、県及び湖周 2 市町との連携による諏訪湖かわまちづくり計画に基づき、地域特性を活用した魅力的な水辺空間の形成を目指してまいります。

私たちの日常生活や経済活動に不可欠なライフラインである上下水道や温泉につきましては、事業を安定的に維持し、将来にわたって自然の恩恵を受けながら安全に生活できるよう、各事業の経営戦略の見直しを図ってまいります。

また、公営住宅等長寿命化計画に則り、集約・再編を基本として、市営二本松団地の建替事業に着手するほか、次世代にふさわしい市役所のあり方を含め、建設から 50 年以上が経過した庁舎の建設に向けた研究を始めてまいります。

三つ目として、技術による変革を促す DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進してまいります。先端技術の有効活用による市民の利便性の向上を図る取組として、AI を活用した効率的な配車を行う AI オンデマンド交通を導入することによって、現行の地域公共交通が抱える課題を解決し、また、デジタル技術を活用した迅速な情報発信や遠隔監視を可能にする排水対策ポンプの IoT 化などの防災 DX によって市民の負担や被害の軽減につなげるほか、農地基盤整備による農作業の生産性の向上や作業の効率化を目指して導入するスマート農業を支援してまいります。市役所におきましても、手続の際の負担軽減を図るための書かない窓口やオンライン化、電子決済の推進に全庁を挙げて取り組んで

まいります。さらに、建物、道路など現実の都市空間をデータ上で立体的に再現したデジタル地図である 3D 都市モデルを、災害リスクの可視化やシミュレーションなどの防災対策をはじめ官民の多様な領域でのオープンデータ化を図り、まちづくりの DX を推進してまいります。

四つ目として、脱炭素社会への変革、GX(グリーントランスフォーメーション)を実践、推進いたします。ゼロカーボンシティ宣言に基づき、市民、事業者、行政が一丸となって、2050 年までに当市における温室効果ガス排出量実質ゼロの達成に向けて取り組むため、まずは市が率先して、市庁舎を含めた公共施設の敷地内に自家消費型の発電設備を設置し、使用電力を再生可能エネルギー由来のものへ転換を図るほか、電気自動車の充電スタンドの設置によって、移動手段の脱炭素化を進めてまいります。また、CO2 の削減に寄与する森林の整備や地熱、温泉熱に代表される特色ある自然エネルギーの優位性を活かした取組を支援するとともに、温泉をゼロカーボンに資する資源としてはもちろんのこと、生活資源や観光資源などへの利活用の可能性について研究をし、その魅力を発信してまいります。

さらに、美しい自然を未来に受け継ぐため、湖畔を含む諏訪湖への流入・流出ごみ対策や本年 3 月に改定された諏訪湖創生ビジョンを基に、清らかな諏訪湖を取り戻せるよう広域的かつ官民連携による各種取組を推進するほか、霧ヶ峰高原の湿原や草原の保全活動を行ってまいります。

次に、S・U・W・A の U、「生み・産み・育て、いたわりま SUWA」で、子育て関連の一体的支援があり、健康長寿の快適生活を支える元気と思いやりのあるまち、未来へつながる活力ある産業のまちについてであります。

一つ目として、子育てを支援し、子どもの自立を支え、生涯にわたる学習やスポーツの充実を図ってまいります。家庭内はもとより職場や地域ぐるみで子育てを支える体制の下で、子育てが楽しいと思える社会の実現を目標に、妊娠期から子どもの社会的自立に至るまで切れ目なく、子どもと子育て家庭の歩みを支援する「すわ☆あゆみステーション」の連携体制や相談機能を強化いたします。また、地域や関係機関と連携をしながら、居場所づくりや養育支援、貧困の連鎖を断ち切る学習支援を行うとともに、児童虐待の防止に力を注ぎ、安心と生きがいを感じ、安全で自立した生活を営むことができる環境整備を進めてまいります。

学校教育におきましては、教育委員会と連携をしながら、新教育大綱と教育振興基本計画を基に、学校教育における各年度の基本的な計画である未来創造あいプランを実践し、学校と地域で連携をしながら、自ら学び、自らの力で課題に立ち向かう意欲を持った子どもを育ててまいります。また、学校施設の改修や修繕を計画的に進め、安全で安心して学習できる環境を整備するほか、子どもたちが継続してスポーツや文化活動に親しむことができるよう、部活動の地域連携等を検討してまいります。さらに、蓼科保養学園において実践し、積み重ねてきた健康教育の成果と精神を継承しつつ、専門家の知見をいただきながら、時代の変化に適応した新しい健康教育プログラムを作ってまいります。

二つ目として、医療と介護の連携によって健康長寿を支えてまいります。住み慣れた地

域で安心して医療や介護を受けることができるよう、関係機関と連携をして地域医療体制の充実を図るとともに、諏訪広域連合の介護保険事業計画と連動をした高齢者福祉計画に基づき、介護従事者の確保と育成、事業者間の連携をはじめ、高齢者が自立した質の高い生活を送ることができるよう支援をしてまいります。また、地域包括支援センターと地域医療・介護連携推進センター「ライフドアすわ」が協働をしながら、一体的で切れ目のない医療と介護の提供をはじめとする地域包括ケアシステムの深化と推進に取り組み、最後まで自分らしく尊厳を保って生きるためのACP（アドバンス・ケア・プランニング（人生会議））の普及・啓発を図るなど、「人生100年時代」の基盤である健康づくり、介護予防や認知症予防、生きがいづくりを支援してまいります。さらに、年齢を問わず一人ひとりの健康に対する意識を高め、望ましい生活習慣や食生活の普及・啓発を図り、市民の主体的な健康づくりを推進してまいります。

これらの施策につきましては、近隣住民を主体としたコミュニティの中で、高齢社会への理解と長寿化のリスクに対する備えを共有しながら、見守りと支え合いが実践できるような支援をするほか、高齢者のみならず、障がい者、子育て世帯など福祉サービスを必要とする方が抱える様々な課題を地域で解決できるよう包括的な相談支援体制を強化し、人と人、人と社会がつながる地域共生社会の実現を目指してまいります。

三つ目として、働く人を応援し、未来へつながる各種産業を支援してまいります。年齢や性別、国籍を問わず、就労やキャリアアップを目指す人を応援するとともに、仕事と生活の調和を図るため、個々のライフスタイルやライフステージに応じ、自らが望む働き方を選択できるよう働き方改革を支援することによって、企業が求める人材の獲得と多様な人材の活躍、働きやすい環境づくりを推進してまいります。

企業は、加速するビジネス環境の変化にいち早く対応しつつ、競争力を確保して持続的な成長を続けることが求められています。そこで、今や必要不可欠となっているデジタル化、SDGs及びグリーン化への取組と、知的財産の取得、新技術・新製品の開発による成長産業分野への進出や新たな付加価値の創出等の取組を支援するなど、企業に寄り添いながら多様な支援を展開し、地域経済全体の活性化を図ってまいります。

さらに、コロナ禍を契機としたリモートワークの急速な広がりによって、地方での起業やワーケーションなど、働き方の選択肢は就業に限らず多様化しております。個人、企業を問わず、新たな事業展開に挑戦する経営者を後押しするため、市内での店舗、工場の立地を促進するなど拠点づくりを支援してまいります。

このほか、様々な福祉ニーズや生活課題を抱える人たちが自立した生活を送り、将来設計を描くことができるよう、生活就労支援センター「まいさぼ諏訪市」によるワンストップ型の相談・就労支援と、諏訪圏域障がい者総合支援センター「オアシス」との連携による障がい者の相談支援の強化に取り組んでまいります。

山林や農地は、一次製品の生産現場としてだけでなく、土砂災害や洪水の防止、自然環境の保全、快適な環境の形成など多くの役割を有しております。しかし、高齢化や後継者不足によって手入れの行き届かない個人有林や耕作放棄地が増加していることから、環境の整備と一次産業の継続を図るための支援を行ってまいります。山林につきましては、林

業における課題を官民で共有し、森林経営管理制度等の推進による間伐や路網整備、松くい虫対策に取り組んでまいります。農地につきましては、意欲のある担い手や新規就農者への農地の集積・集約化を基軸に、農地基盤整備事業による水田の大区画化やパイプライン化を進めることによって生産性の高い優良農地を確保し、農業振興地域としての価値を高めてまいります。また、国内外に向けてブランド化を目指す地域の特産品の生産者を応援してまいります。

令和6年度末の廃止を予定しております公設地方卸売市場につきましては、廃止後も市場利用者が業務を継続できるよう関係事業者や専門家のご意見を伺いながら、市場利用者のニーズに合った食の供給機能を継承する仕組みを導入してまいります。

続いて、S・U・W・AのW、「輪と和をつくり分かちあいまSUWA」で、様々な人や組織の協力と調和によって新しい時代を展望してまいります。

一つ目として、未来の活力ある諏訪市を実現するため、市民と共同して多岐にわたる行政課題の解決に向かってまいります。SNSをはじめ様々な媒体を活用して市政に関する情報を分かりやすく発信し、市民と市が目指す将来像や施策への理解を深めていただき、市政への参画を進めてまいります。また、まちの根幹を成すコミュニティに対する支援では、地域の自治組織が主体となり、災害時に限らず、平時においても高齢者や子どもの見守りなど、近隣住民同士で支え合いながら身近な課題を解決し、地域活動の活性化につなげることができるよう、区や自治会を支援するとともに、小規模地区を中心に、近隣地域との連携や組織づくりを後押ししてまいります。

二つ目として、人と投資を呼び込み、多様な人材が活躍できる環境を整備してまいります。一般財源に限られる中、ふるさと寄附金制度やクラウドファンディングは、入るを量るという面において、各種事業を進める上で有益な自主財源の一つであります。今後も、諏訪市ならではの特産品や強みを活用した体験型の返礼品を拡充し、シティプロモーションの観点を取り入れ戦略的に発信するとともに、個人の皆様のみならず、企業版ふるさと納税や公共施設のネーミングライツなど企業各社の賛同をいただきながら、持続可能な行政運営と地域経済の活性化を図ってまいります。

このほか、誰もが持てる能力を発揮し、自分らしくいきいきと暮らしやすいまちを形成することが、移住促進などの人が集うまちづくりにつながることから、性別、年齢、国籍、障がいといった多様性を認め合えるよう、意識啓発や支援活動を推進してまいります。

三つ目として、国や県、諏訪圏域6市町村、民間との連携協力を地方創生に活用してまいります。地理的、経済的に密接に関わりのある諏訪圏域6市町村は、消防業務や介護保険事業を共同運営する広域連合を中核として、圏域全体の活力の向上と持続可能な社会の形成を視野に、連携によって効率的な行政運営に取り組んでおります。今後も、DXによる事務事業の効率化や行政サービスの充実につながる広域連携の強化を進めてまいります。また、国や県のほか、放送大学、公立諏訪東京理科大学などの教育機関、国内外の企業、団体と、防災や医療、教育、産業、観光など多分野にわたって、既存の枠組みにとらわれない連携協力を促進し、圏域全体の活性化を図ってまいります。

最後に、S・U・W・AのA、「集まり、遊び、楽しみまSUWA」で、様々な人が親しむ各種の主体的な活動を支援し、元気と楽しさの拠点づくりを推し進めてまいります。

一つ目として、市民が文化や芸術、スポーツに親しむための活動を支援してまいります。ここ諏訪の地には、恵まれた自然の中で紡いできた歴史や文化が継承されており、過去に学び未来につなぐことのできる土壌があります。この貴重な地域資源を後世に伝えるとともに、学びや集いの場を整備し、生涯を通じた学びを支援してまいります。国の史跡として指定を受けている高島藩主諏訪家墓所の整備基本計画を策定し、歴史的価値を高める整備を進めるほか、資料の収集及び活用の方針を見直しながら、博物館や美術館の新たな収蔵施設の建設に向けた準備を進めてまいります。

スポーツ活動につきましては、令和10年に長野県で開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会を市民がスポーツに親しむ好機と捉え、当市で行われる3つの競技が円滑に実施できるよう準備を進めてまいります。また、公共施設等総合管理計画の個別計画に基づく体育施設の集約化の方向性を踏まえ、老朽化した既存施設のあり方について検討を更に進めてまいります。

二つ目として、市民と来訪者が嬉しさ、楽しさ、幸せを感じられる「“SUWAらしい”があふれる観光地」の実現に向けた取組を進めてまいります。当市の多彩な観光素材を活用し、新しい時代に適した観光産業が地域の暮らしを豊かにするものとなるよう、関係者のみならず地域住民を含めてビジョンを共有し連携を図り、観光グランドデザインの具現化を実現してまいります。地域資源を最大限に活用したコンテンツの創出として、「まちあるき呑みあるき」や地域に希望と元気を提供する「諏訪湖の花火」といったイベント観光に加え、マラソン、トライアスロン等の諏訪湖の自然環境を楽しみながら行えるスポーツなど、幅広い分野と連携して誘客を推進してまいります。また、KRT（霧ヶ峰リポータースクフォース）プロジェクトと協調した市有施設の有効活用や登山客を惹きつける山の整備を進め、アウトドアレジャーを楽しめるコンテンツを強化してまいります。このほか、諏訪湖周サイクリングロードを拠点とするサイクルツーリズムや誰もが安心して旅行を楽しめるユニバーサルツーリズムなど、新たな観光スタイルで一年中誰でも楽しめる場所づくりを目指してまいります。

情報発信と戦略的プロモーションの強化としては、観光分野におけるDXを推進し、データの分析・集約を含めたデジタル技術の活用によって、諏訪の観光ブランドに適した宿泊・交通・飲食・観光資源などの一元的な情報発信と、デジタルマップやキャッシュレス決済など旅の利便性を向上させるツールの提供、インバウンド向けの日本食や歴史文化を切り口にした訴求性の高いコンテンツの創出など、高付加価値化による観光振興を推進してまいります。また、Wi-Fiやトイレの整備、眺望スポットへの案内板の設置を進め、国内外からの来訪者の利便性と快適感を高めてまいります。

三つ目として、移住、交流の促進によってまちの活力を高めてまいります。人を呼び込み、人口の社会増を図るためには、移住希望者や諏訪に関係する人の多様なニーズを把握し、暮らしやすいまちとしての評価と更なる魅力の向上が必要となります。そこで、移住

相談セミナー等による住まいや仕事、子育て支援等に関する相談への対応を行うほか、空き家・空き地バンクの活用やUIJターンによる就業・起業の支援など、要望や期待をお聞きし対応する中で、移住定住の促進につなげてまいります。また、姉妹・友好都市や神話の縁結びかみがたりネットワークなど、縁あって結ばれた自治体との交流を充実させ、更なる発展につなげるとともに、諏訪を舞台とした映画やドラマなどを通して広く諏訪市の魅力を発信し、誘客の促進と郷土愛の醸成を図ってまいります。

以上、申し述べました各政策は、令和8年度までに実現すべき6つの重点目標、33の基本方針を定めた第六次総合計画と、関連する各計画の目標達成を前提とし、市民の皆様が夢を描けるよう作成したものであります。私は、まちづくりの重要な課題に取り組むに当たっては、ワークショップによる市民参加を進めるなど、様々な連携協力を心がけてまいりました。この2期8年の間において、その取組が着実に実を結び、市民が主役のまちづくりにつながっていると実感しております。今任期中におきましても、私の政治の基本姿勢である大きな耳と分かり合う自由な対話を大切にしながら、連携協力によるまちづくりを一步ずつ着実に前に進め、諏訪市に住み、訪れる人々の幸せ感、安心感、楽しさ、嬉しさを実現してまいります。そして、日本で唯一ともいえる高原湖畔都市である諏訪市がより一層輝きを増すよう、揺るぎない郷土愛と情熱を持って果敢に挑戦を続け、全身全霊で市政に邁進してまいり所存であります。市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を心よりお願い申し上げまして、以上、施政方針といたします。